

1987 8

# 日経 CG

NIKKEI COMPUTER GRAPHICS



・マルチメディア・ウィンドウ  
・インテリジェントCAD



# CGパーソン

土佐 尚子

CGアーティスト



## 無意識の世界を 映像に表現する

アーティストは、自分の思っていること、考えていること、胸の中からこみ上げてくるものを思う存分表現できる場所や機会を探し求める。土佐尚子氏はフリーのCGアーティストであり、ビデオ・アーティストである。これまで自分の思いを表現するために“放浪”した。表現するものは、「人間の無意識、意識下、深層心理の世界」。人間の内面に興味がある。代表作は「TRIP」(NCGA '86に入賞とSIGGRAPH '86のアニメーション・スクリーニングに入選)と「ECSTASY」(87年国際映像&音楽大賞に入賞)。いずれもCGと実写を組み合わせたビデオ・アート作品で、白昼夢の映像である。

1961年、九州の福岡市で生まれた。地元の九州造形短期大学でグラフィック・デザインを専攻した。当時は現代美術に関心を持っており、特にビデオ・アートに取りつかれていた。CGを取り入れた作品を見たのは卒業間近になってから。「あっけにとられた」という

のが第一印象で、CRT上に現れた映像は「これこそ私の求めていた無意識の世界」、「頭の中の思考が映像に現されたように思えた」と言う。

なんとかしてCG機器を使えるような仕事を求め、83年4月に映像機器を扱っている報映産業(本社東京)に就職、次いで85年5月にCGプロダクションの学研コンピュータ・グラフィックス映像センター(本社東京)に転職した。「オーロラビデオグラフィックスシステム」や「ANTICS」などのCGシステムを使いながら、周辺機器の操作、映像構成の技術、コンピュータ・プログラミングなどを身に付けた。

しかし、仕事でコマーシャル・フィルムなどのCGを制作していても、それらは「クライアントの要求に合わせた映像で、自分の作品ではなかった」。仕事の合間をぬって自分のCG作品やビデオ・アートの制作を続けたが、なんといっても本業が忙しい。自分が深い関心を持つ世界を表現したいという欲求は募る一方だった。

この欲求不満を解消するために、86

年5月にフリーとなった。現在はコンピュータ関係の3つの専門学校で非常勤講師を務め、コンピュータ・アートやグラフィック・デザイン、図形処理のためのプログラミングなどを教えながら、自分の作品を制作している。専門学校のコンピュータとCG機器が使えるとか、授業時間以外は自分のスケジュールで動けるとか、制作活動がしやすくなった。最新作はビデオ・アートの「ENERGY」だ。

映像と音楽を組み合わせたCGビデオ・アート作品だけではなく、これまでに劇団「NOISE(如月小春主宰)」が舞台で使う映像をいくつか制作したり、パフォーマンスに使う映像を制作したりもしている。土佐氏自身も役者の経験がある。「映像は中間的なメディアで、例えば舞台演劇のようなものとの組み合わせが面白い」、「映像だけに限らず、ほかの業界の人達を巻き込んで仕事をしたい」という希望もある。

(A.S.)